

[様式 9 - 1]

福祉サービス第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人永興福祉会 永興小金塚保育園	施設 種別	保育園 (旧体系：)
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構		

平成 27 年 9 月 2 日

総 評

永興小金塚保育園は、山科区四ノ宮に属し、諸羽山東方から大津市藤尾にかけての丘陵地帯が開発されてできた住宅地の山手に位置した環境で運営されています。

社会福祉法人永興福祉会を設置主体に、1978年に開設以来、現在においても小金塚地域における唯一の保育園として運営を続けてこられました。「たくましく、やさしい、感謝のある子どもを育成する」という生命の大切さを説かれたお釈迦様の教えを「仏教保育」の理念として、同一法人内で運営されている永興保育園・永興くじょう保育園・永興北白川保育室・学童クラブなどと共有し、保育の実践が行われている様子が同法人及び保育園パンフレットやホームページからも読み取ることができます。

「本物に触れさせる本物の教育」を目標及び活動の指針とした実践を行うため、園内には大きな水槽で熱帯魚の飼育がなされている他、迫力のある本物の絵画を多く展示するなど、子どもたちの感性に直接問いかけるような設えを随所に見受けることができます。また、裏手の山には、シカやサルなどの野生動物を日常的に身近に感じることができ、その実践を補うための恵まれた環境において取り組まれていることも確認することができました。

さらに、サッカーや剣道・茶道など、外部の専門的な講師を迎え入れ、さまざまな体験を通じて、「好きなこと、得意なことは、より伸ばし、嫌なこと、辛いことも頑張って達成すること」を教え、「喜びから自信につなげ、頑張ることから、がまん、努力する力を育てる」を保育の方針とした保育実践が行われていることは、高く評価できることと考えています。訪問調査時に同園の子どもたちから振舞われたお茶のお点前はなんとも愛らしく、訪問調査時に日々の実践成果の一端を体験させていただける貴重な機会を得ることができました。

保護者との個人懇談会（年に1回・2月に実施）や保育参観を実施する他、毎月発行している園便りや「らいおんぐみだより」「ひつじぐみだより」など、写真を多く用いたお便りを作成し保護者への保育環境を頻繁に提供している状況を確認することができます。また、アレルギー食の個別対応や「早くトイレの自立をさせて欲しい」など、保護者の意向に沿って取り組まれている様子を聞き取ることができます。

豊かな保育実践が行われている一方で、その保育実践に関連する法令の把握や各種規程の整備への取り組みにいくつかの課題が見受けられます。何を整備していくことがより実践に有効であるかの議論を行っていただき優先順位をつけて取り組まれますことを期待します。

保育園の立地状況は、決して交通の便がいいとは言えませんが、園長や主任を中心に働きやすい職場環境を感謝の気持ちをもって整え、職員が一丸となって日々の保育に向き合っておられる様子を見受けることができ、また、保護者に対するコミュニケーションだけではなく、管理者から職員への、職員同士のコミュニケーションが円滑に行われていることが就労持続への要因となり、立地など特異な状況を跳ね返す原動力

	にもなっている状況がうかがえます。今後も小金塚の地域特性を有効に活用した保育実践に継続して取り組まれますことを期待しています。
特に良かった点(※)	I－1－(1・2) 「命を大切に」という法人としての仏教保育の理念に基づき、同園としての「たくましく、やさしい、感謝のきもちのある子どもを育てる」という保育理念や保育方針・保育目標が、パンフレットやホームページにおいても明確に示されており、「本物に触れさせる本物の教育」を実践的に示す工夫が園内の随所に見受けられ、子どもたちが日常的に触れ合う環境を整えている。 II－2－(2・3) 有給休暇の消化については、ほぼ全員が消化できるように積極的に取り組まれ、その状況を職員全員が確認できるように工夫されている。職員の悩みや相談は園長及び主任を中心に対応し、適切なアドバイスが行えるよう体制を整えている。管理者は、常に感謝の気持ちをもってコミュニケーションを大切にし、職員の立場に立った働きやすい職場環境の構築に尽力をしている。保育士として働きながら同園にご自身の子どもの通園させている事例が聞き取れる他、離職率が限りなく低い状況から客観的にも働きやすい職場環境であることが見受けられ、高く評価できる。 II－3－(1) 器械体操・サッカー・スイミング・剣道・茶道・絵画教室など、各分野の専門家を広く受け入れ、外部の社会資源を有効に活用する他、お味噌作りや納涼イベントなど、地域の方々が園の行事に参加できるような企画を実施したり地域の小・中学生を受け入れ、積極的に交流を行っている。 IV－1－(1) 「子どもたちの身体づくりに必要な給食。絶対に安心できるものでなくてはならない」との保育指針に基づいて、アレルギー食が必要な子どもには、個別対応が開園以来継続して取り組まれている。また、子どもたちの喫食環境を適切に把握するとともに、保護者に対しても年に2回試食会が開催されている。喫食環境に課題のある子どもに対しても、その課題の把握から支援計画まで、適切に対応している状況を聞き取ることができる。
特に改善が望まれる点(※)	I－3－(1) 保育制度や関連事項に対応するために必要な研修などへの参加は積極的に行われている状況を聞き取ることができるが、保育園を適切に運営するために必要な遵守すべき法令などを正しく理解するために幅広く関連法令を把握する仕組みやリスト化するなどの取り組みは確認できなかった。 III－3－(2) 転園の場合、転園先とは園児の状況を報告・共有するなどの連携体制があり、卒園後も小学校との連携や併設の学童クラブを介して相談できる体制にある状況を聞き取ることができる。しかし、保育終了後に保護者に対して、相談方法や担当窓口などの内容を記載した文書の整備は確認できなかった。今後、状況に応じて保育終了後の相談対応マニュアルなどの整備を検討されますことに期待したい。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	永興小金塚保育園
施設種別	保育
評価機関名	一般財団法人社会的認証開発推進機構
訪問調査日	平成27年7月21日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-2 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非	非
	I-2-2 (2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-3 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	B
	I-3-3 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

I-1-1 (1) 法人・保育所の理念・基本方針が明文化されたものが玄関のボードや職員室に掲示されている。またパンフレットやホームページなどにも法人・保育所の使命や方向性、考え方が分かり易く読み取れるように記載されている。

I-1-1 (2) 保育理念・基本方針・保育目標が記載された文書を全職員に配布し、職員会議などで確認・周知がなされ、保育事業活動の規範となっていることを職員会議記録ノート(会議録)や「保育課程」などの事業所内文書から確認することができた。利用者(保護者)には、見学時や入園時、懇談時などの折々にパンフレットや文書により説明されているほか、地域への取組みとしては、ポスター等の掲示やチラシ・文書の配布、ホームページなどを通じて、保育所の各情報に関する周知が図られていることを確認した。

I-2-2 (2) 保育課程は年に一度見直しが行なわれる他、各年齢毎に年間指導計画・月案・週案と細かく展開していくものが作成されており、職員会議や管理職会議などで検討がなされ、地域の特性及び利用者の意見やニーズ等を取り入れ、必要に応じて評価・見直しを行うなど、全体的にきめ細かく検討が加えられ実施されていることが職員会議記録ノートなどから確認できた。また、保育課程や年間指導計画、クラスだよりなどが各クラスに掲示されており、職員や利用者がいずれも確認できる体制が取られ、通園時や毎月の園外保育活動、懇談会を通じて、利用者意見の聴取・確認が行われており、保育活動の取り組みを伝える姿勢がうかがわれた。

I-3-3 (1) 保育士一人ひとりの意見を聞き、職員の育成強化を図り、保育サービスの質の向上や改善に対するリーダーシップを取られていることが職員への聴き取りなどから確認できた。管理者の責任や役割についての文書が確認することができなかったため①はB評価とした。法令遵守のための研修への参加や職員への周知への取り組みは認められるが、関連法令のリスト化は不十分であったため②についてもB評価とした。

I-3-3 (2) サービスの質の向上を図るため、管理者のリーダーシップのもとに定期的・継続的に会議や個別職員面談などが実施されており、報告・検討の機会を設けて職員の意見を取り入れる仕組みが確立されていることが確認できた。また、国の制度改正などに対応するための具体的な課題を明確にし、業務改善やサービスの向上についての提案を行っていることが聴き取りや職員会議記録ノートなどから確認することができた。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅱ－１ 経営状況の把握	Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
Ⅱ－２ 人材の確保・養成	Ⅱ－２－（１） 人事管理体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
	Ⅱ－２－（４） 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	B
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
Ⅱ－３ 地域との交流と連携	Ⅱ－３－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B
	Ⅱ－３－（２） 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

〔自由記述欄〕

Ⅱ－１－（１）保育園連盟、日本保育園協会、全社協（全国社会福祉協議会）など、関係各団体から社会福祉事情全般及び保育園連情報の収集と把握に努められており、地域の小学校、地域自治連合会、学区社協の他、山科地区の園長会議への参画を通じて、地域の環境変化や現状について把握されていることが聞き取りから確認できた。また、職員会議、管理職会議、法人内の園長会議では、利用者ニーズの把握や分析、園を取り巻く環境の変化、経営状況分析などを行い、経営改善に取り組まれていることが聞き取れた。

Ⅱ－２－（２）年１回の職員ヒアリング及び職員会議において、職員の希望や意向を汲み上げ、職務効率や職員配置の検討に反映されている。有給休暇は全員が消化できるよう奨励されており、有給消化一覧表が職員室に掲示されるなどオープンな取り組みがなされていることが確認できた。また、インフルエンザ予防接種費用を園が負担し、希望があれば外部カウンセラー（保育園連盟所属）によるカウンセリングが受けられる体制があることが資料から確認できた。

Ⅱ－２－（３）職員の人材育成計画については、職員心得９ヶ条において組織が求める人材モデルが提示され、職員の研修参加は積極的に実施されており、報告書の提出を義務付け、職員会議等で報告されている。外部研修参加への奨励や法人内保育園への交換実習などは事業計画の中に盛り込まれており、職員の資質向上に組織として取り組まれていることが確認できた。ただし、個々の職員についての個別の教育・研修計画が具体的に策定されておらず、②についてはB評価とした。

また、職員面談時に教育、研修結果についての個別評価は口頭で行われているが、個別研修計画に基づいた分析・評価が組織的・体系的に実施されていないため③についてもB評価とした。

Ⅱ－２－（４）実習生については規定されたマニュアルに基づいた運用がなされているが、実習生受け入れに関する意義・方針が明文化された文書が確認できなかったため、①についてはB評価とした。

Ⅱ－３－（１）子どもの社会体験を助け、社会性を育てる場として、地域の人々との交流を深め、園の有する機能を還元する取り組みが実施されている。自主事業として、週に１回の未就園児親子向けの開園や地域の方が参加できるエアロビクス教室、小学生のためのジャンピング教室、老人クラブとの合同運動会、お味噌造り他を開催されているほか、地域イベントへの園児の参加など、民生委員や地域の自治会、各種団体などとコミュニケーションを図り、積極的に交流されていることが活動記録などから読み取ることができた。また、地域の社会資源の関する一覧表も確認できた。なお、ボランティア受け入れに対する意義・方針が明文化されていないため、③はB評価とした。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ－１－（２） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ－２ サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	C
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	C	C
	Ⅲ－２－（２） サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－３ サービスの開始・継続	Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	B
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ－３－（２） サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B
[自由記述欄]				
Ⅲ－１－（１）プライバシー保護についてはマニュアル集に「プライバシーポリシー」として規定している他、職員会議、内部研修などで、個人情報保護に対する職員の意識向上を図られていることを確認した。保護者向けには「入園のしおり」に個人情報保護方針を入れているほか、各室にも掲示されていることが確認できた。 Ⅲ－１－（２）苦情解決の仕組みとしては、定められたマニュアルに沿った対応がなされており、ご意見箱、手紙、電話、口頭など様々な手段を利用できる体制がある。苦情解決責任者及び担当者、第三者委員の設置を通じて、客観的に判断し処理（改善策の検討・実施、利用者へのフィードバックなど）できる仕組みが整備されている。また、入園のしおりや重要事項説明書により利用者に周知されていることを確認した。 Ⅲ－２－（１）今回、第三者評価受診が初めてであったため①と②はC評価となったが、今回の受診を契機として今後の受診評価体制の構築が期待できる。 Ⅲ－２－（２）子どもの身体状況や生活状況については、入園面接時の健康診断書や保護者からのヒアリングした内容を、定められた「児童票」に記載し、全職員がアレルギー情報を含めて把握するようにしている。定期アセスメントは年１回実施しているが、必要に応じて改訂していることが資料から確認できた。また、園児の記録管理については園長・主任が管理責任者となり、保存方法や個人情報の保護と開示、プライバシー情報の管理、職員としての守秘義務遵守などについて、必要な管理をされていることを確認した。しかし、保管・保存・廃棄に関する文書規程が個別分野には存在するものの、統一的に文書として整備されていなかったため①と②はB評価とした。利用者情報の共有については、回覧ノートや更衣室掲示板などで一次情報を共有し、ケース会議や月１回の職員会議において、担当部署の調整や職員間の共有が確認されていることを資料から確認できた。 Ⅲ－３－（１）利用希望者がサービス選択をするに当たっては、パンフレットやホームページ、重要事項説明書などで園の理念や保育サービスの内容が理解できるよう分かりやすい表現がなされている。見学時にも実際の保育内容を見ていただくなどの対応が聞き取れたが、ビデオによる園の活動紹介は未取り組みであったため①についてはB評価とした。				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	B
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	B

[自由記述欄]

IV-1-(1) ①④健康管理に関しては「健康管理マニュアル」が作成され、感染症対策などの種別に秀逸にまとめられている。また、「早見マニュアル」の設置により、より早く対応、伝達ができるような工夫がされていることが確認できた。

IV-1-(1) ②③年2回の内科検診や歯科検診、眼科検診を行い、その結果や普段の状況を「健康状況表」、「幼児健康診断表」、「健康調査票」に取りまとめるうえ、職員や保護者に伝達され、それが保育に反映されていることを確認した。

IV-1-(1) ⑤～⑧クッキング保育やガーデンクッキング、お弁当バイキング、野菜栽培をするなど、年間を通じて食育の推進及び食事を楽しむことができる工夫がなされていることを、玄関前の展示食の設置をはじめとして、各「クラスだより」や「給食予定献立表」、アレルギー児への代替食の対応から確認することができた。

IV-1-(2) 採光や通風などに配慮された保育環境のもと、利用者が持ち込まれる寝具の適切な管理や、乳児の部屋の床暖房や各部屋への加湿空気清浄器の設置など、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備されていることを確認した。また、園庭の他に屋上・グラウンド・乳児用の庭を設けるなど、伸び伸びと身体を動かせる場を工夫して配置されている。また、ドアと床の色の統一を図るなど、生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っていることを確認した。

IV-1-(3) ①～⑥保育内容に関しては、子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと試みていることが、声かけや、おもちゃの選択、自然への関わり、表現活動の体験、集団の保育の上で各人が注意すべき事の伝達など、個々の生活習慣や家庭状況を聞き取り、それぞれの発達状況に関して遊びや生活を通じて人間関係が育つように留意して対応されていることが聞き取れた。

IV-1-(3) ⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いをみとめ、互いに尊重する心を育てるように、異文化圏からの子どもの在園については、宗教の違いからの食生活などを個別に配慮する、性差への先入観による固定的な役割分業意識を植え付けない保育をしていることを聞き取った。

IV-1-(3) ⑨乳児保育に関しては、乳児専用の庭を設置し、午睡時の睡眠チェック表への記載、SIDS（乳幼児突然死症候群）の知識を周知するなど、家庭との連携を取りながら行われていることを聞き取った。

IV-1-(3) ⑩長時間保育の子どもたちへの配慮は、異年齢児との関わりを持ち、おやつや水分補給などを行われているが、「献立予定表」にはその記載が無いため、自己評価・第三者評価とも評価結果はBとなっている。

IV-1-(3) ⑪障害児保育のための環境は、巡回相談や各専門機関との連携、職員への多様な研修の機会確保（海外の研修を含め）、職員会での周知など、大変良く対応はされているものの、バリアフリーへの工夫に一定の課題が見受けられるためB評価とした。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

IV-2-(1) ①～③入所児童の保護者とは、クラス懇談、個人懇談、保育参観のほか、子どもの姿や保育の取り組みなどを、イラストと写真と手書きで丁寧にまとめられている各「クラスだより」にて知らせている様子を確認できたほか、必要に応じて随時懇談の設定や年2回の給食試食会が開催されている。また、「回覧ノート」での全職員への情報共有と周知が行われており、こまめな対応がなされていることを聞き取った。

IV-2-(1) ④⑤虐待が疑われる子どもの早期発見のため、「虐待防止マニュアル」が整備され、該当児童の毎月の出席状況や保護者・子どもの様子などの情報を記録し、必要に応じて児童相談所などの専門機関との連携が行われていることを確認した。

IV-2-(1) ⑥子どもの発達記録やケア記録は、入園時の様子の記録、乳児クラスの個人月案や保育日誌、身体測定表に記録され、保育指導計画に反映していること、また、小学校との連携のために、交流なども年に数回行われていることを年間計画により確認し、内容を聞き取った。

IV-2-(2) ①一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、一クラスに複数の子どもを受け入れることをせず、きめ細かな対応を取られていることを聞き取った。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]

IV-3-(1) ①②安全や事故防止は、感染症マニュアルやその他のマニュアルに食中毒の対応が記載されていることを確認したほか、月一回の調理場でのミーティングで見直しと改善がなされていることを聞き取った。また、職員会議での全職員への周知や各種研修の参加もなされていることも聞き取った。伝達研修で職員に対するマニュアルに基づく研修がされていることを確認したため、自己評価ではBのところをA評価とした。

IV-3-(1) ③④事故防止のための「ヒヤリハット事例」のノートを設置するほか、事故防止のためのチェックリストやマニュアルが完備されていた。また、「防災マニュアル」が整備されており、月一回の避難訓練、年度当初の救命救急法とAEDの使用法、心肺蘇生法など、消防署と連携して行われていることを確認した。

IV-3-(1) ⑤不審者の侵入に備えた「早見表マニュアル」の設置がされており、防犯のための警備会社への契約もなされているが、警察などとの連携のもとで、マニュアルに基づいた職員に対する研修が未整備であったため、自己評価・第三者評価ともB評価となっている。